

いのちと暮らしを守る (上)



結成当時は、「農民の暮らしを守り、安くておいしいお米を」と食管制度を守る運動に取り組み、小児マヒ予防の生ワクチンの輸入要請、年々続く物価値上げに対しては3千人の主婦がエプロンデモを組んで、首相官邸を取り囲みました。



高度経済成長によるひずみは、四日市喘息、水俣病、PCB汚染、農薬による中毒や土壌汚染など、人々の健康を蝕みました。森永ヒ素ミルク中毒の追及、スモンの被害者救済、カネミ油症被害者を守る運動、そして有害食品総点検運動、消費者条例の制定運動にとりくみました。



1963年三池炭鉱三川坑で大爆発がおき、458人が亡くなり、労災認定されただけで839人のCO中毒患者がでました。日本婦人会議は三池主婦の会と交流を行い、一酸化炭素中毒法を制定させる署名活動にとりくみました。



合成洗剤の危険性に気づいた私たちは、1973年ハイム粉せっけんを開発し、業界の反対を押し切って成分表を公表しました。翌74年、第1回きれいな水といのちを守る合成洗剤追放全国集会が開かれました。私たちが作った「合成洗剤追放」のスライドは全国から注文が殺到し、海外にも紹介されました。



合成洗剤追放の運動は、病院や保育所、学校給食の現場に広がり、自治体を動かし、79年には琵琶湖条例が制定され、石けん推進運動は私たち女性会議の活動の柱の一つとなっています。地球環境を汚し続ける原発にも反対してとりくんでいます。

※5月10日号本欄に誤りがありました。「92年12月に在日の金学順(キム・ハクスン)さんが…」とありましたが、「91年12月に韓国の」に訂正いたします。